

2025 年 5 月 8 日

各 位

会 社 名 水道機工株式会社
代 表 者 代表取締役社長 古川 徹
(コード番号 6403)
問合せ先責任者 専務取締役 丸山 広記
(TEL 03-3426-2131)

2025 年 3 月期通期連結業績予想数値と実績値との差異の発生及び、売上高並びに営業利益の増加、
営業外収益及び営業外費用計上、法人税等調整額（損）発生に関するお知らせ

2025 年 2 月 6 日に公表いたしました通期連結業績予想数値と、本日公表の実績におきまして差異が生じており、当該差異内容並びに 2025 年 3 月期決算内容について以下の通り、お知らせいたします。

記

1. 2025 年 3 月期連結業績予想と実績との差異

(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	28,840	1,300	1,100	300	69 円 99 銭
実 績 (B)	25,966	1,479	1,376	427	99 円 75 銭
増 減 額 (B-A)	△2,874	+179	+276	+127	+29 円 76 銭
増 減 率 (%)	△10.0%	+13.8%	+25.1%	+42.3%	—
(ご参考)前期実績(2024 年 3 月期)	21,634	450	661	367	85 円 74 銭

2. 連結業績予想との差異理由

(1) 売上高及び営業利益

当社グループのプラント建設セグメントにおいて、一部工事出来高の検収が次年度以降に繰り越されたことに伴い、予想と比べ売上高が減少する見込みとなった一方で、O&Mセグメントを中心に、年度中の完工案件や運転管理案件での契約更新等により採算が改善いたしました。その結果、2025 年 3 月期連結売上高が 28 億 74 百万円減少し 259 億 66 百万円となった一方、営業利益は 1 億 79 百万円増加し、14 億 79 百万円となりました。

(2) 経常利益

持分法適用関連会社である Suido Kiko Middle East 社（以下、SKME 社）の持分法による投資損失について債務超過額の負担額が減少し直近予想比で 1 億 75 百万円減少したことや、前述の営業利益の増加等により、経常利益が 13 億 76 百万円と直近予想比で 2 億 76 百万円増加しました。なお、関連する営業外収益及び営業外費用の詳細につきましては、次ページ「3.」の「(2) 営業外収益及び営業外費用の計上と業績への影響について」の通りとなります。

(3) 親会社株主に帰属する当期純利益

経常利益の増加の一方で、SKME 社への資金支援に関連する法人税等調整額（損）の発生により 4 億 11 百万円を計上（直近予想比 1 億 11 百万円増加）したこと等により、親会社株主に帰属する当期純利益が 4 億 27 百万円となり直近予想比で 1 億 27 百万円増加しました。

3. 2025 年 3 月期業績の前期比変動について

(1) 売上高及び営業利益の増加について

連結決算及び個別決算

連結売上高は、グループ全体で 259 億 66 百万円（前期比+20.0%）と前期比で増加となりました。セグメント別の主な要因として、プラント建設では、高水準の手持受注残高に対して工事施工・引き渡しを行い工事出来高並びに工事完工が堅調に増加し、また、O&Mでは、運転管理新規受託やメンテナンス案件の受注増加に伴う収益計上増加により、それぞれのセグメントで売上高が前期比で増加しました。

損益の状況については、増収並びに採算改善により売上総利益が増益となり、販売費及び一般管理費における事業拡大のための要員拡充等による人件費増加やサービスステーション設置等での経費増加を吸収し、連結営業利益は 14 億 79 百万円（前期比+228.7%）となりました。

個別決算での変動状況は、売上高 162 億 60 百万円（前期比+18.6%）、営業利益 8 億 31 百万円（前期比+310.1%）となりました。主な要因としては、前述の連結業績としてプラント建設セグメントで記載した内容の通りとなります。

(2) 営業外収益及び営業外費用の計上と業績への影響について

①個別決算

（持分法適用関連会社である SKME 社業績の影響について）

当社持分法適用関連会社である SKME 社におきまして、当社は前事業年度末（2024 年 3 月期）までに同社への債務保証の状況から SKME 社の債務超過額に対して 100%を当社負担として債務保証損失引当金を 9 億 44 百万円計上しております。

当社と現地パートナーは、契約済み工事の完成を目的として、出資比率に見合った資金支援を行うことを合意し、2023 年度から段階的に SKME 社への貸付を実行しております。この実行に基づき、当事業年度（2025 年 3 月期）において実行された現地パートナーの出資比率 51%相当の資金支援を考慮した上で、当事業年度末（2025 年 3 月期末）時点における SKME 社の債務超過額に対する債務保証損失引当金を見積もった結果、営業外収益として債務保証損失引当金戻入額 9 億 87 百万円を計上することとなりました。一方で、営業外費用として主に債務保証損失引当金に対する為替変動に伴う為替差損を 2 億 63 百万円計上するとともに、SKME 社向けに工事遅延リスク回避のための資金支援を実行したことから、貸倒引当金繰入額 11 億 48 百万円を計上いたしました。

この結果、前項売上高並びに営業利益の増加の状況並びに上記営業外収益及び営業外費用の発生により、2025 年 3 月期個別決算におきましては、経常利益が 5 億 17 百万円（前期比+29.8%）となり、また、課税所得の増加による税額増加並びに SKME 社への資金支援に関連する法人税等調整額（損）の発生により、当期純利益が 54 百万円（前期比+45.6%）となりました。

②連結決算

（持分法適用関連会社である SKME 社業績の影響について）

前述記載の通り、個別決算では営業外収益並びに営業外費用が発生いたしますが、2025 年 3 月期連結決算におきましては、個別決算で計上された債務保証損失引当金戻入額と貸倒引当金繰入額を相殺し、関連する為替差損を為替換算調整勘定として計上した結果、営業外費用として持分法による投資損失 1 億 15 百万円を計上いたしました。

この結果、前項売上高並びに営業利益の増加の状況並びに上記営業外収益および営業外費用の発生により、2025 年 3 月期連結決算におきまして、経常利益が 13 億 76 百万円（前期比+108.2%）となり、また、課税所得の増加による税額増加並びに SKME 社への資金支援に関連する法人税等調整額（損）の発生により、親会社株主に帰属する当期純利益は 4 億 27 百万円（前期比+16.2%）となりました。

なお、業績予想に対する差異内容は、前ページの「1. 2025 年 3 月期連結業績予想と実績との差異」並びに「2. 連結業績予想との差異理由」に記載の通りとなります。

以上